



安曇野水紀行。

MIYAMA information



2013 May - June

土を「洗う」という発想から生まれた 現地処理の新技术

昨年 11 月の PIGEON POST vol.12 で紹介した「現地洗浄サービス」の現場レポートをお届けします。このサービスはミヤマが開発した化学洗浄技術によりこれまで困難とされた高濃度の重金属汚染土壌の現地処理を行うもので、今回は土壌汚染対策法の基準値を超えるふっ素及びその化合物がスポット的に分布している敷地内で処理を行いました。

掘削した約 146t の汚染土壌をこの現場に合わせて調合した機能性洗浄液で化学洗浄し、洗浄後の土壌は現地に埋め戻して処理を完了しました。



汚染土壌 脱水後、洗浄液は再利用 洗浄済み土壌（埋め戻し）

本サービスは車両1台分の設置スペースで処理できるため、工場等の稼働への影響を最小限に抑えることができ、汚染土壌の搬出を伴わないため汚染物質の拡散や環境負荷の低減、周辺への影響など、環境に配慮した対策を低コストで行うことができます。

洗浄システム一式を搭載したトレーラー



法規制強化の 1,4-ジオキサンに対応 ミヤマ環境分析サービス

油脂の抽出や洗浄用の溶剤として使用されることの多い 1,4-ジオキサンは、平成 21 年の環境基準項目への追加を初めとして、昨年 11 月には排水基準が設定され、本年 6 月からは一定濃度以上を含む廃棄物が特別管理産業廃棄物に指定されるなど、近年規制が強化されている物質です。ミヤマ環境分析サービスは 1,4-ジオキサンにも対応し、分析から処理までお客様の環境マネジメントをサポートしています。



排水や廃棄物中の 1,4-ジオキサンを分析するガスクロマトグラフ質量分析計

環境保全事業

早期発見 早期改善

工場診断サービス ～水質汚濁防止法に対応～

ミヤマでは工場診断を行い、設備の構造や仕様の確認、定期点検の代行、水質汚濁防止法に伴うコンサルティングや設備改善提案を行っています。



こんな悩みを解消します！

- ・この施設は届け出が必要？
- ・基準に合致しているか不安だ
- ・定期点検や記録の方法は？
- ・埋設配管の点検方法は？



総合環境企業

ミヤマ株式会社

本社／〒381-2283 長野県長野市丹波島一丁目1番12号 TEL.026-285-4166 (代) FAX.026-283-0011

■リサイクルセンター／長野・松本・東京・燕・秋田・名古屋・大阪 ■工場／長野・中野・上越・分水・燕・大町
■技術開発センター ■EM開発センター ■装置機材センター ■保全機材センター
■名古屋プラントサービスセンター ■新潟プラントサービスセンター ■関西プラントサービスセンター
■営業所／盛岡・秋田・仙台・郡山・宇都宮・水戸・新潟・長岡・燕・上越・中野・長野・上田・松本・諏訪
甲府・前橋・埼玉・東京・千葉・横浜・静岡・富山・名古屋・京都・大阪

詳しくは当社ホームページへ <http://www.miyama.net/>

PIGEON POST #15

発行日：平成25年5月1日 発行人：南 克明 企画：ミヤマ株式会社 広報室 制作：合同会社 ch.



清らかな雪解け水が育む
安曇野のわさびのある風景

扇状地で地下へと浸水した北アルプスからの雪解け水は伏流水となり、不透水層を流れて、再び扇状地の終わる扇末端、安曇野でもっとも低い土地で「湧水」となって姿を現します。つまり、安曇野の地は、水源が乏しい扇状地と、水源が豊富な湧水地が併存しています。その湧水からなる河川のひとつが「万水川」。わずか7.4kmの短いこの川は、平野部から突然姿を現わし、北からも南からも、万（よろず）の水を集めて滴々と流れます。

この万水川沿いにあるのが、15ヘクタール、東京ドーム約11個分の日本最大規模のわさび田「大王わさび農場」です。日量70万トンもの湧水量を誇る「安曇野わさび田

湧水群」の一角に位置し、1日12万トンの湧水を引き込んでわさびを栽培しています。訪れる観光客は年間およそ120万人。安曇野随一の観光地で、特に3月下旬から5月上旬にはわさびの白い花が咲き揃い、残雪を抱く北アルプスとのコントラストが見事な風景を見せてくれます。

この地にわさび田が開拓されたのは大正時代。清らかで豊富な水に加え、水温が外気温に左右されることなく、年間を通して13℃前後を保っていることがわさび栽培には最適で、収穫は1年中行われています。わさびの生産量は長野県が全国一。そしてその9割以上が安曇野産です。



PIGEON POST
ミヤマから「信州のキラメキ」をお届けします ピジョンポスト #15

水とともに歩む安曇野の歴史

自然と人が創った豊かな大地

水清く風薫る安曇野。美しい田園風景が広がり、水面に残雪が連なる北アルプスの山々が映る風景は、誰もが「安曇野らしさ」を感じるのではないだろうか。しかし、長野県下でも有数の穀倉地帯であるこの地は、かつては稲作に不向きな荒涼とした大地でした。

北アルプスの秀峰・常念岳に源を発する烏川は、安曇野の平野部まで流れ込むと、ほぼ流水が見られなくなります。ほかにも、この地には途中で水がなくなる、いわゆる「尻無川」がいくつも見られます。これらの河川は、北アルプスの渓谷でそれぞれ急流となって岩石や土砂を運び、平地面に入ると礫の多い土砂を扇状地に堆積して水はけの良い扇状地を形成します。安曇野はこのような扇状地がいくつも重なりあう、全国的にも珍しい「大複合扇状地」。そのため豊かな水は地中へと染み込み、古くは川の右岸と左岸で水をめぐる対立も起きたといえます。

こうしたなかで人々は知恵を出し合い、堰と呼ばれる農業用水路の整備を進めました。なかでも最も革命的で、現在の安曇野に広がる約1000ヘクタールの田園の礎を築いた奇跡の堰が、江戸時代後期の文化13（1816）年に開削された拾ヶ堰です。大複合扇状地の中央を、ほぼ標高570mの



等々力秀和さん

観光や視察で安曇野を訪れた人々に向けた現地ガイド活動を行う「安曇野案内人倶楽部」代表。ほかに松本地域景観育生サポーター運営委員会や、NPO法人信州ふるさとづくり応援団理事長など、安曇野に関するさまざまな活動を精力的に行っている。

等高線に沿って横切り、長さは約15kmにして勾配はわずか三千分の一。1km進んで30cmほど下がるだけという微妙な高低差は、驚くほど単純な木製の計測器で測量され、鍬やふるはしだけで、のべ6万7000人の地域住民によって掘り進められました。しかも完成は着工からおよそ3ヵ月という驚異的な早さ。この一大プロジェクトの功労者のひとり、26年間にわたりおおぶ期間を土地の調査に費やし、村人の反対にも屈せず、取りまとめ役を果たした柏原村の庄屋・等々力孫一郎です。

安曇野の水のエキスパートで「安曇野案内人倶楽部」代表の等々力秀和さんは、その子孫。

「拾ヶ堰は、あと3年で開削から200年を迎えます。私たちはこの歴史ある文化遺産を次世代に伝えることで、多くの人に繰り返し安曇野を訪れて欲しいと思っています。そのためにガイドを通じて、魅力的なこの地の広報活動を行うとともに、堰周辺の広場に花を植えたり、草取りや水やりを定期的に行うことで、景観の美化に努めています」と話します。

今、安曇野で目にする豊かな水は、北アルプスの自然と、かつてこの地に生きた人の努力によって今に伝えられています。



大王わさび農場の脇、万水川と並行して流れる夢川（たてかわ）では、かつて黒沢明監督の映画「夢」のほか、NHK朝の連続テレビ小説「おひさま」の撮影も行われました。



北アルプスの雪解け水が伏流水となり、1日70万トンの水が湧出している「安曇野わさび田湧水群」。国土交通省から「水の郷」の認定を受け、環境省の「名水百選」にも選出されました。豊かな水はわさび栽培に用いられ、その排水はニジマス養殖にも利用されています。

安曇野には人々の暮らしを見守る道祖神が500体以上点在しており、大王わさび農場内にも男神・女神が並ぶ双体道祖神があります。



安曇野のわさび



わさびには、冷たく清らかな深流や湧水で育てる「沢わさび」と、畑で育てる「畑わさび」があり、安曇野では主に生食用として利用される沢わさびを栽培しています。大王わさび農場では、収穫までおよそ2年を要し、生わさびのほか、わさび漬やわさび風味の漬物、菓子類などの加工品、場内レストランの食材としても使用されています。



大王わさび農場
長野県安曇野市穂高1692 ☎0263-82-2118 8時30分～17時20分（季節変動あり） 年中無休 入場無料